

日本胎盤臨床研究会 研究要覧

第 10 号 (2012 年)

〔第 11 回研究会 講演要旨集〕

〔招待講演 1〕 自己複製するタンパク質‘プリオン’の制御
岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 教授 桑田 一夫 — 11 —

〔招待講演 2〕 ガンマ線照射およびベンゾピレン (BaP) によって誘導された
ラットの各種組織における酸化傷害に対する胎盤抽出物 (PE) の影響
高麗大学大学院医学科 教授 Donggeun Sul Ph.D. — 24 —

〔特別講演〕 日本胎盤臨床研究会大会10回を振り返って
吉田クリニック 院長 吉田 健太郎 — 33 —

〔研究発表 1〕 胎盤エキスによるシミの治療
上野医院 院長 上野 正樹 — 49 —

〔研究発表 2〕 動物におけるプラセンタの使用経験
鈴木動物クリニック 院長 鈴木 富吉 — 63 —

〔研究発表 3〕 先ず使ってみようプラセンタ
——知らなかった効き方があり、医療に幅ができる
清水整形外科クリニック 院長 清水 伸一 — 73 —

〔コラム〕 パネルディスカッション「プラセンタ療法の可能性と、今後の課題」について — 88 —

〔参考資料〕

胎盤抽出物のベンゾピレン曝露ラットにおける DNA、脂質、タンパク質損傷に対する保護効果
高麗大学大学院医学研究科 Eunha Oh, Ji-youn Lim, Donggeun Sul — 89 —

ガンマ線被曝ラットにおける胎盤抽出物 (PE) の DNA 損傷に対する保護効果
高麗大学大学院医学研究科 Eunha Oh, Yoon-Jin Kim, Ji-Youn Lim, Donggeun Sul — 99 —

〔巻末資料〕 日本胎盤臨床研究会の入会申込書、申請書、
および知的財産権利用許諾契約書 — 107 —